

千代田界隈のレトロな風景



喫茶去

「きっさこ」と読みます。禅で使われる言葉で「お茶でも飲んでゆっくりしていきなさい。」という意味だそうです。

(千代田day食堂にて)

みどりの風



2019.8.1

-NO.251-

人・ひと日記

小林 功

前回と前々回は高齢者の自動車免許証の更新について体験談を書きました。今回は『自動車と安全』について考えてみました。

私は三十年近く製鉄所で働いていました。年間を通して多くの工場はフル稼働していますが安全に対する力の入れようは並々ならぬものでした。中でも製品や原材料等の移動物体と人との接触防止策は物の流れの最適化、通路やスペースの確保、安全柵や防護壁の設置、異常検知センサー導入等のハード対策と、徹底した教育による安全意識の醸成が繰り返し行われてきました。これにかける費用は他の投資案件より優先され「安全第一」がスローガンで終わることなく実体化されてきました。

工場の中での安全への取り組みと、街の中での「自動車と人」との関係を考えてみると大きな格差があると思います。交差点で信号待ちをしている人の目の前を時速数十キロの大型トラックが走り抜けていく。直進車と右折車がきわどいタイミングと距離間で交わし合っている。工場の中での物流では考えられない光景です。道路交通法では安全柵や防護壁の設置基準は無いとのこと。

高名な経済学者であった宇沢弘文氏が出版した「自動車の社会的費用」の紹介記事を雑誌で読みました。自動車を使うことで、どれだけ人々の安全や権利が脅かされているか、それを解決するにはどれだけの費用がかかるか、経済学的手法で分析してみると、歩行者が安心して歩ける権利を守るための環境整備、大気汚染等の環境悪化、交通安全や救急医療体制等々、かかる費用は自動車一台あたり千二百万円の投資が必要になる。これが「見えない社会的費用」であり、これを負担するためには新たな税金が必要となる・・・という提言です。

パフォーマンスとオートマチック車の登場、そして軽自動車の高性能化は自動車運転を誰でも簡単に出来るものとし、国の経済成長対策の後押しもあり販売台数を飛躍的に増やして来ました。しかし誰でも乗れる易しい車でも走っているときは「凶器」。昨今の交通事故の例からみると高齢者がクローズアップされ「誰でも」にブレーキが掛かってきているように感じます。増え続けてきた自動車。それでも売ろうと開発を進めているのが「誰でも乗れる自動運転車」なのではないか。

発行 社会福祉法人 悠朋会

相模原市中央区千代田2-4-1

千代田デイサービスセンター

042-751-0672

ヘルパーステーション千代田

042-704-0261

千代田介護支援センター

042-704-0281

千代田相談支援センター

042-707-1434

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com

アクティブサンデー



今月のアクティブサンデーは3階の食堂を使ってカップケーキ作りを行いました。家ではなかなか料理をしなくなった為、皆さん張り切って調理を楽しまれていました。出来上がったカップケーキはおやつの時間にみんなで美味しくいただきました。

外出リハビリ (北公園)



梅雨の晴れ間を見つけて北公園までリハビリを兼ねて紫陽花の花を見に出かけました。皆さん公園内を意欲的に散策されいつも以上に笑顔がはじけていました。



8月の予定



体重測定	5日(月)～11日(日)
書道	15日(木)
折り紙	15日(木)
夏祭り	16日(金)、17日(土)
	19日(月)
シナプソロジー	21日(水)
誕生会	25日(日)～31日(土)



七 夕



今年の七夕は夜空をイメージしてエレベーターの中からフロアの中まで天の川や新調した笹に短冊に願いを込めて飾り付けをしました。フロア内では七夕の曲をかけたり、浴槽では笹舟を浮かべていて、どこにいても七夕の雰囲気を楽しむことが出来ました。昼食やおやつも七夕メニューで、おかずに星がいくつあるか数えながら召し上がりました。午後からは七夕にちなんだ寸劇やハンドベルで『キラキラ星』『たなばたさま』を演奏し、いつもと違う雰囲気で過ごすことができ、笑顔も多く見られ大盛況でした。



第11回 千代田ふれあいコンサート 松本律子 マリンバ ～静のリズム、無のメロディー～



曲目
「スペイン：C. コリア」
「リベルタンゴ：A. ピアソラ」
「レモン哀歌：松本律子」
他

令和元年
8月30日（金）
千代田デイサービス
センター3F
17時30分開場
18時～開演
入場無料・要予約



予約・お問い合わせ

042-704-0261 または chiyodah@topaz.ocn.ne.jp (要予約)



ヘルパーステーション
手島 絢子

京都日帰りの旅



二十六年ぶり三十三間堂の千手観音が1001体揃うニュース。二人の孫が揃って入試となることから北の天満宮にも寄る旅の計画を立てた。

1000体の観音様は圧巻だった。深々と頭を下げ後にする。

北の天満宮で合格祈願をしてお札を二つ購入。牛一頭ずつに合格するよう心を込め撫でて来た。

京都駅に向かうバスの中でイギリスから来た一人旅の女の子に出会う。日本は素晴らしいと連発してくれる。



家に着き熱い緑茶を啜りながら疲れを忘れさせる旅だったと娘と話す。千手観音は素晴らしかった。北の天満宮の祈願にも満足。しかし、なによりイギリスの彼女が「これから広島へ寄る」のひと言に感激した旅だったように思う。



ケアマネジャー
日高 明夫

伊東に行くならハトヤ

伊東に行くならハ・ト・ヤ

電話は4126(ヨイフロ)!

というわけで、今年の日高家の旅行はハトヤでした。家族6人と長男の同級生、合わせて7人で行きました。ハトヤ過去30年分のCMを見てから出発しました。



演歌歌手のディナーショーにて、ハトヤが数十羽飛んできました。

海底温泉から亀やサメのいるお風呂、ゲームセンターや近くの道の駅を巡り堪能しました。雨だったので遊覧船やぐらんぱる公園には行けませんが、全力ではしゃいで来ましたよー！来年は宝くじを当ててディズニーランドへお泊りに行きます。